郵便はがき

巣鴨獄

石川三四郎

一廣

十二月六日

逓信省發行　　印刷局製造

31
6204
64

昨夜、拙作、お目に掛けました、お褒めの言葉も来会せて恐縮に存じます、道徳論なぞ、義人なるものを、講習会で説かうとなぞ、思ひもよらぬ事、僅に借られたので、迷くなつた、迷ひし来れば直ぐ義に入れる、おのづから許さるゝ、公用倫と共に、公用倫は、義に入れて義入れる、公用倫は、僅は、足下と全く一致せざるを、唯だ遺憾なるは、宇宙万物に対する仁術を異にするにだけ、クに対する仁術の如きは、極端なる唯物論なだけ、遠く足下の一論を、伺ひたいと思つてる、本下は、いつ、雑誌を出すとして来た、詳細は、別紙に、認めます

大久保利通

十月

幸徳伝次郎